

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）

視点1「学習意欲の持続」	視点2「児童生徒が主体となる学び合い」
学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。	自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。
【現時点での課題（授業者・学習者）】 ・テーマを意識して、主体的に学びを深めることを持続すること。（学） ・生徒たちが主体的に学び続けるために、テーマを意識し、導入場面での工夫がさらに必要であること。（授）	【現時点での課題（授業者・学習者）】 ・道徳的価値を自分のことと捉え学び合いを深める活動ができているかどうか。（学） ・言語活動を通じた自らの考えの広がりや深まりを自らの変容として具体的に表現出来るようにできているかどうか。（授）

第3学年 道徳科 指導計画

主題名 気高く、前向きに生きる (D22 よりよく生きる喜び) 教材名 亡き母のトランペット (「新・中学生の道徳 明日への扉」学研教育みらい)	日 時	令和4年11月1日(火) 5時間目
	対象学級	遠野東中 3年B組(21名)
	授業者	教諭 岡本圭子

1 ねらい

東日本大震災で母と祖父母を亡くした主人公が、深い悲しみに区切りをつけようとトランペットを吹くことで、生きていく上でつらいことや苦しいことから逃げず、それを克服する力があることを信じ、人間としての誇りや喜びをもって力強く生きていこうとする実践意欲を高める。

2 主題設定の理由

ねらいとする道徳的価値	生徒の実態	教材の特質と活用方法
内容項目「よりよく生きる喜び」は「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと」とある。 自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるといふことに目を向けられるようにする必要がある。また、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになっていくことが大切である。	学校生活に対して、意欲的に取り組み目標に近づくために協力できる集団である。 しかし、興味のあることに対しては積極的に頑張ろうとする面が見られるが、興味のないことに対しては深く考えられなかったり行動が出来なかったりする。 また、目指す自分に近づきたいと思いつつも自信がもてず、すぐにあきらめたりする傾向がみられる。	本教材は、東日本大震災の津波で母と祖父母を亡くした佐々木瑠璃さんが、人々の励ましの中で、悲しみを乗り越え、強く生きていこうと歩み出す姿を通して道徳価値に迫るものである。 そこで、本時は、自分が苦しみや悲しみに出会った時、それを乗り越えようとする気持ちをもつためにはどうしたらよいかということをも面的・多角的に考え話し合い整理させる。 主人公の生き方を通して心の変容を理解させ力強く生きていこうとする意欲を高めさせたい。

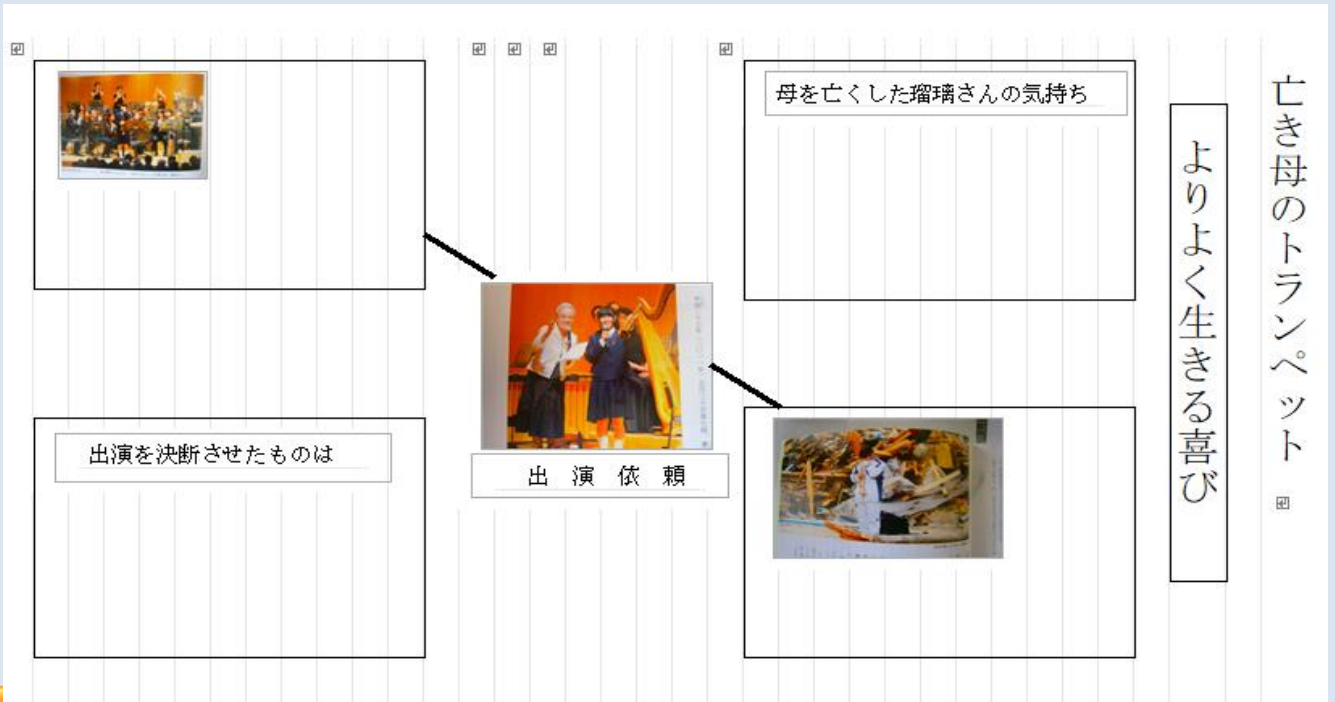
3 「2つの視点」+αによる授業改善

(どのように学ぶか)

視点1「学習意欲の持続」	視点2「児童生徒が主体となる学び合い」	本校の+α「振り返り」
日常生活での問題を道徳上の問題として把握させる。 中学3年間の復興研修の学びを想起させる。 資料の提示について工夫を凝らし、主人公の生き方を通し学習課題に迫ることを意識させる。 学習前と学習後の変容に気づくためにじっくり考える場の設定をする。	道徳価値について多面的・多角的に捉えていくために、主人公が悩んだ末に決断した理由やその後の心の変容について交流の場を設定する。	振り返りの場面において、道徳価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていくために、主人公から学んだことをまとめる場の設定と確認をする。

5 本時の展開		(本時をどうデザインするか)	
	学習活動	・発問 ◇予想される生徒の反応	・指導上の留意点◆評価の視点
導入 5分	1 教材の内容について想起する。 2 瑠璃さんがトランペットをもち、がれきの前で立ち尽くす写真を見てどんなことを感じたのか発表する。 【視点1：学習意欲の持続②】 3 本時の学習の方向を確認する。	【視点1：学習意欲の持続①】 ・この写真を見てどんなことを感じましたか。 ◇東日本大震災の時の様子 ◇可哀想◇悲しい◇辛い	・事前に読んだ教材の内容を想起し、被災者の一人である瑠璃さんの生き方を通して学習テーマに迫ることを意識させる。 ・被災者の一人である瑠璃さんの生き方を通し、学習テーマに迫ることを意識させる。 ◆学びの見通しをもつことができたか。
【 学習テーマ 】 よりよく生きる喜び			
展 開 35分	4 瑠璃さんの気持ちと心の変容について考える。 5 自分の考えをもつコンサートの動画を見て瑠璃さんから学んだことをまとめる。	【視点2：児童生徒が主体となる学び合い①】 ・瑠璃さんは、亡き母が好きだった曲をトランペットで吹こうと思ったのはどんな思いからでしょう。 ◇悲しくて仕方ないから ◇自分の今できることだから ◇どんなことにも負けないよ ◇悲しみに区切りをつける 【視点2：児童生徒が主体となる学び合い②】 ・演奏後、大きな拍手に包まれながら、瑠璃さんはどんな思いを抱いていたでしょう。 ◇出場して良かった。 ◇支えてくれる人たちがいる。 ◇母にも聴かせたかった。 【視点2：児童生徒が主体となる学び合い③】 ・舞台上で感謝の言葉を述べる瑠璃さんの姿から、私たちにどんなことを学びましたか。 ◇辛さを乗り越え前向きに生きていくこと ◇生きていくことにより喜びも経験できる	◆自分の考えを書き、グループ内の交流を通し、他者の考えも取り入れ主人公の心情を明確にするために聞き合うことで考えを深め、道徳価値について多面的・多角的に、考えを深めることができるようにする。(発言、記述) ◆現実を受け止め悲しみを乗り越え前向きに生きようと決意する瑠璃さんの変容に気付かせる。(発言、記述) ◆道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。辛いことがあっても逃げず、乗り越え、よりよく生きていこうとする瑠璃さんの姿について考えることで、自己を見つめ、道徳的価値の理解を更に深めることができるようにする。(発言、記述)
終 末 10分	6 本時の振り返りを行う。 7 発表・交流し学習をまとめる。	・本時の振り返りを記入する。 瑠璃さんは、人生で味わったこともない辛い経験をしても乗り越えながら、前向きに生きていこうとしているので、私も大変なことがあっても強く歩んでいきたいと思った。そして、自分の人生を楽しんでいきたいと思った。	[本校の+α 振り返り] ◆瑠璃さんから学んだことを通して、自己を見つめ広い視野から多面的・多角的に自分の生き方と重ね参考にできたか。 ◆他者の発表を聞き、価値の明確化に近づけたか。 ◆～ので～からと理由を明記しながら振り返っているか。

6 板書計画等



C A

目指す授業像 (本学区では、共通してどんな授業を目指すのか)

視点1 「学習意欲の持続」	視点2 「児童生徒が主体となる学び合い」
<p>学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。</p>	<p>自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。</p>
<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びに結びついていたもので、主体的な学びの持続につながっていたと思われる。 ・価値項目と本時の課題を最初の段階で生徒に提示していた。このことは、価値項目によってもケースはあるが本時の場合は明確にできてよかったのではないか。 ・板書が生徒の考えをまとめやすくしていた。 ・グループの話し合いも役割分担もあり、意欲の持続につながっていた。 	<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い、考え合いということが授業を通して道徳性がどのように変容していったかを見取ることができる授業であった。また、一面的にみることにより多面的になっているのを見ることができていたと思われる。ここでは、根拠を大切に見取ることが大切であると思われる。 ・ねらいと、発問に一体化があり一本筋がはいっていた。 ・生徒同士が交流を通して、他者の考えを取り入れたり確認しあったりし、学びを多面的・多角的に行っていた。
<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値項目にもよるが、価値を最初に提示する授業を日頃から行っている。そのことにより、発問や学習ツールを工夫し、考え議論する学習活動を組織し生徒の内面的資質に働きかける授業が作られると思う。 	<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板書においても資料名の明示だった従来のものを、価値項目を課題と結びつけ明示することにより、中心発問と課題(価値項目)がぶれなかったことは、生徒の思考へと結びつけることができた。 ・交流において、考えの交流のみにとどまらずに互いに確認したり学びを自分の考えにしたりしていたことは今後も続けていきたいと思う。
<p>【授業者所感・今後の実践に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成のために、これからも「自己をみつめ」ながら「多面的・多角的に考える」道徳科の授業に努めていきたいと思う。 ・評価においても4つの着目点を大切に継続し生徒の成長へと繋げていきたいと思う。 	

